

先日、京都でいっしょに勉強した友人に 27 年ぶりに再会しました。バングラデシュ人のご夫妻で今は、アメリカにお住まいです。ご高齢になられたホストマザーに会うために約 1 週間の予定で来日されました。大阪、京都、そして金沢で旧知の人たちと再会し、北海道を観光、富士山を見て、大阪からアメリカに帰られました。昔、京都にいた時は、お互いの幼い子ども達を預けたり、預かって協力したものです。彼らがいなかったら子育てに困っていたと言っても言い過ぎではありません。金沢では 2 泊され、渡米後のお話を聞くこともできました。アメリカで医師免許を取るための勉強中は、奥さんが保育士の免許を取って生計を立てたそうです。その後は精神科医として医療や行政とのネットワークを築き、現在は開業医として活躍されています。多くの苦勞を乗り越えてこられたお二人に心から拍手を送りました。



[最近目立つ病気]

RS ウィルス感染症は冬季の病気ではなくなりました。近年は季節を問わず流行を繰り返しており、今年も夏の終わり頃から感染者が多いです。涼しくなってから溶連菌感染症や感染性胃腸炎も増えてきました。

気温の変動が大きく、ヘルパンギーナや手足口病等の夏風邪もまだ見られます。

マイコプラズマ感染症や A 型インフルエンザも一部で見られています。

寒暖差やダニ・ハウスダストアレルギーが関与していると思われる頑固な咳が続いている人も目立ちます。

[風疹]

風疹ウイルスは飛まつ感染します。発熱や発疹などが主な症状です。最も注意したいのは、妊娠初期に風疹ウイルスに感染することによって、おなかの赤ちゃんに起こる悪影響です。

風疹は、子どもがかかる病気と思われがちですが、最近日本では大人の発症が 9 割近くを占めています。日本では、2013 年に風疹が大流行し、1 万 4 千人以上が風疹にかかったと報告されています。風疹を発症すると、主な症状として発疹が現れます。小さく赤い発疹が全身に広がります。そのほか、38℃前後の発熱、耳や首の後ろのリンパ節の腫れ、目の充血、軽いせきなどの症状があります。大人では関節痛が現れることも多く、また、大人がかかること、高熱が出たり、発疹が長引いたりするなど、重症化することもあります。

風疹で最も注意したいのが、妊婦への感染です。妊娠 20 週ごろまでに妊婦が風疹ウイルスに感染すると胎児にも感染して、生まれてきた赤ちゃんが先天性風疹症候群という病気になる可能性があります。妊娠初期に感染するほど、障害が起こる可能性が高まるとされています。

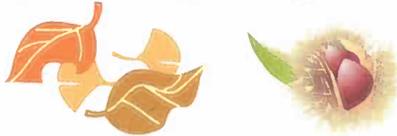
先天性風疹症候群になると、難聴、心臓の病気、白内障・緑内障・網膜症といった目の病気、低出生体重、精神・運動発達の遅れ、発育の遅れ、血小板減少性紫斑病、肝脾腫（肝臓や脾臓が腫れること）などが現れます。

風疹は、妊娠がはつきりしない妊娠

初期から胎児への影響が大きいため、先天性風疹症候群を防ぐためには、男性を含めて多くの人が予防接種を受けて風疹の流行を起こさないことが重要です。妊娠中はワクチン接種を受けることができないため、女性は妊娠前に 2 回予防接種を受けておきましょう。



[NHK 健康チャンネルより
https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_701.html]



[オブジーボ]

今年のノーベル生理学・医学賞に京都大学の本庶佑（ほんじょ・たすく）特別教授と、米テキサス大学のジェームス・アリソン教授の二人が選ばれました。二人とも免疫チェックポイント阻害薬開発の元になった研究が受賞理由であり、本庶特別教授は PD-1、アリソン教授は CTLA-4 の研究で知られています。

人体には「免疫」というシステムがあり、免疫細胞（T 細胞）が体外から入ってきた異物、病原菌や、体内で細胞が変化して出来た「がん細胞」を検知して、これらを取り囲んで殺したり、動かなくしたり、体外に排除する働きをします。

「PD-1 (Programmed Death-1)」は、活性化した T 細胞の表面に出てくるタンパク質として本庶佑教授らの研究グループによって発見されました。PD-1 は、T 細胞が活性化され過ぎた状態が続かないように T 細胞を抑える信号を伝えます。がん免疫では、T 細胞に攻撃されたがん細胞は、PD-1 を介して T 細胞を抑える信号を流して、T 細胞ががん細胞を攻撃できないようにしてしまいます。すなわち、

がん細胞が自らを守るために、チェックポイントで T 細胞にブレーキをかけてしまうのです。

T 細胞にかかったブレーキを外すのがニボルマブ（商品名オプジーボ）です。ニボルマブは、活性化した T 細胞の表面にある PD-1 にしっかりと結合し、がん細胞が出した T 細胞を抑える信号をブロックします。これによって、T 細胞にかかったブレーキが外され、T 細胞は活性を取り戻して、再びがん細胞を攻撃できるようになるのです。免疫チェックポイント阻害薬「オプジーボ」は小野薬品工業と本庶特別教授のグループとが共同研究して生まれました。



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター (Tel:222-0099) では午後 7 時 30 分から 11 時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は、11/29・1/2 の予定です。なお、12 月 24 日は当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチン（ロタウイルス・おたふくかぜ・インフルエンザ・B 型肝炎）についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆10 月 15 日からインフルエンザワクチン接種がはじまりました。接種料金は 1 回目 ¥3,500、当院で続けて 2 回接種の方は 2 回目は ¥3,000 です。

☆世界の宝「憲法 9 条」を次の世代に贈りましょう。

